令和元年度
学長戦略経費（重点分野研究プロジェクト）

効果的な個別の支援計画作成法の開発と支援力の育成

―実態把握方法の開発と情報支援―

事業成果報告書

北海道教育大学
特別支援教育プロジェクト
令和 2 年 3 月

はじめに

個別の支援計画の作成の肝となるのが，児童生徒の実態把握である。学習指導要領（特別支援学校学習指導要領解説自立活動編）においても，実態把握の方法として「観察法」「面接法」「検査法」等があげられている。実際の教育現場においては，主として観察法，面接法を用いた，いわゆる「インフォーマルアセスメント」による実態把握が主となり,「検査法」の使用は，その専門性が高い故に検査結果が医療などから提供されるか，心理アセスメントに熟達した教員がいるなど，限定されているのが現状である。

スクリーニングも含めた質問紙，個別検査でも特に高度な専門性がなくても実施できる検査も存在する。通常学級などでは，こうした質問紙等を使い，スクリーニングをする一方で，スクリーニング検査で疑いが生じた児童生徒については，より個々に応じた専門的な個別検査を実施することが必要であろう。加えて，専門機関から提供を受けた検査結果の読み取りは，一定の専門性を要する。こうした専門性を身につけることも求められる。

以上の課題を改善，克服するためには，通常学校で用いる専門性が不要なアセスメントの普及と専門的な個別検査を実施する教員の育成，が求められるであろう。具体的には，SDQ（子どもの強さと困難さアンケート），子どもの QOL 尺度（古荘ら，2014），社会的スキル（磯辺ら，2006）無料で用いることができる，標準値が存在する評価尺度のほか，個別の支援計画作成により特化した独自の尺度を作成して，児童生徒の実態把握をより的確に，簡便に行うことができる尺度を開発して,個別の支援計画作成の際に広く役立ててもらう。加えて，これまで広く用いられてきた WISC-IV や KABC-II のほか，適応行動を評価する Vineland-II 適応行動尺度といった専門的な個別検査の活用について，より多くの教員が使用し，評価することができるよう，人材育成と研修を実施する必要があるだろう。

本プロジェクトの目的は，個別の支援計画作成における実態把握をより効果的に行うための心理アセスメントの開発と普及である。キーワードは,幅広く，手軽に，安価に，効果的に実施できるアセスメントの普及である。そのためには，現状の尺度以外の尺度開発も必要となってくる。加えて，より専門に特化した個別検査は現状限られた者しか実施できないことから，より多くの教員が検査法を習得し，また検査法を習得しないまでも，検査の読み取りをできるス

キルを身につけるために，各種研修を行い，アセスメントを実施できる，評価できる教員を育成する。対象としては，学齢期のみならず，学齢期との接続も考え，幼児も対象に加え，幼児，児童，生徒のライフステージを通した支援計画の作成をサポートするプロジェクトとする。

Ⅰ．事業の概要

特別な教育的支援を有する児童生徒については、様々な発達課題に応じた支援の手立てを明らかにすることが求められる。そのためには地域の学校現場で活用できるアセスメントなの方法や支援方法に関する情報が求められる。一方北海道の広域性ゆえ情報や支援力の地域格差の問題が大きいことが指摘されている。より実効性の高い支援方法の開発とその普及が強く求められている。本プロジェクトは、これらの地域ニーズに対し、全キャンパスの特別支援教育担当者と附属学校、附属小中学校特別支援学級と連携による評価法の開発を行うとともにIT機器を活用した情報提供ならびに実際の支援を展開することでその有効性を検証する。

Ⅱ．実施内容

1.実施内容の概要

計画に基づき以下の取り組みを行った。

(1) 情報サーバへの情報の蓄積

本学の特別支援教育に関するコンテンツの蓄積を行うとともに情報支援サーバ「ほくとくネット」を通した学生、学校現場への情報提供と情報公開を実施した(2020年3月末現在の総閲覧数：170920アクセス)。

・講義や講演資料のweb公開の促進
・特別な教育的ニーズのある子どもへの臨床支援方法に関する情報の蓄積と公開

(2)教員向け研修プログラムの実施

・各キャンパスの取り組み担当者が、特別なニーズを有する子どもへの支援方法やアセスメントなどに関する情報提供を行った。
・附属特別支援学校の公開研究協議会において、現在求められる附属特別支援学校の役割について校内で研修を行った。
・附属小中学校特別支援学級（ふじのめ学級）

(3)附属との連携による人材育成プログラム

・附属特別支援学校での臨床実習授業を行った
・特別支援教育の実習カリキュラム内容についての研究を実施した

(4) 心理アセスメントの実装プロジェクト

個別の支援計画作成における実態把握を効果的に行うための心理アセスメントの実装プロジェクトとして情報の蓄積を行った

(5)そのほか

本プロジェクトに関する内容について、道内で実施された学会において報告するとともにプロジェクト遂行に関する打ち合わせを行った。

2.成果の内容

(1) 特別支援教育に関するコンテンツの蓄積と情報支援

発達障害児や重度重複障害児等への支援方法として、身体活動を通した発達支援に関する臨床活動（キンダーぷらっつ：年11回実施、みんなの遊び場：札幌市との共同企画1回・札幌市障がい者スポーツ指導者協議会との共同企画2回、校内臨床活動：6回）や支援環境構築を行い、情報サイトなどを通して公開した。

また以下に挙げる教員支援などに関する講演会や講習会、さらにその内容などについて、情報サイトを通して広報を行った。

(2) 教員向け研修プログラム

特別支援教育スタッフによる「道南地域における現職教員研修プログラム(発達障害児への理解と支援)」を実施した。令和元年８月１８日（日），上ノ国町総合福祉センター(ジョイ･じょぐら)にて，函館校地域教育専攻の特別支援教育スタッフが中心となり，特別支援教育への理解を深めることを目的として，「道南地域における現職教員研修プログラム(発達障害児への理解と支援)」を実施した。本研修プログラムは今年で３年目を迎え，熊石(2017)・八雲(2018)に続いて，実施した。当日は，午前中に上ノ国地域における特別支援教育の現状について意見交換を行い，午後からは，「北村博幸教授：発達障害児の理解」「五十嵐靖夫教授：発達障害児への具体的支援」「細谷一博教授：通常学級における合理的配慮に基づく発達支援」の講演を行った。本研修プログラムには幼稚園，小学校，中学校，高等学校，福祉関係や行政関係の職員が参加し，特別支援教育への理解を深めた。

・上富良野町にて特別支援教育に関する研修会の講師（WISC検査結果の読み取りと学習指導場面での活用）を行なった（旭川校：片桐）。
・美幌町にて「楽しい親子関係プログラム」の研修会講師を行った（旭川校：片桐）。
・第４６回北海道情緒障害教育研究会上川・旭川大会の第４分科会「自閉症の子どもの支援」において助言を行った（旭川校：片桐）。
・第４３回北海道学校図書館研究大会旭川大会の分科会において助言を行った（旭川校：片桐）。
・７月16日から12月10日まで８回にわたり，令和元年度旭川市子ども総合相

談センター研修事業「ペアレント・プログラム」の研修会講師を行った（旭川校：片桐）。

・上川管内言語障害教育研究会の講習会にて「WISC-IVの見取りと指導への生かし方」に関する講演と講習を行った（旭川校：片桐）。

・上川管内言語障害教育研究会富良野地区研修会の講師として「言語・学習面で困り感のある子どもへの理解と支援」の講演を行った（旭川校：片桐）。

・上川教育研修センターにて「幼小連携教育」の研修講座講師を行なった（旭川校：片桐）。

・旭川市教育研究会北部・西部ブロック研修会でアセスメントの研修会「WISCなど発達検査についての見取りと指導への生かし方について」講師を行った（旭川校：片桐）。

・平成３０年度道北地区児童館連絡協議会にて児童厚生員研修会の講師を行った（旭川校：片桐）。

・日本教育大学協会養護教諭部会第54回研究協議会の講師として「多様な子どものニーズに対し養護教諭は何ができるか？ ～発達障害の有無にこだわらない視点と支援～」の講演を行った（旭川校：萩原）。

・第121回日本小児精神神経学会の研修セミナー講師として「発達障害における感覚処理特性の把握と支援」の講演を行った（旭川校：萩原）。

・第3回日本DCD学会学術集会のプレコングレス講師として「発達障害の感覚処理特性に関するアセスメント～感覚プロファイル・シリーズ～」の講演を行った（旭川校：萩原）。

・NPO法人きらりの研修会講師として「発達障害特性の理解と対応」に関する講演を行った（旭川校:蔦森）。

・第54回上川管内教育研究会の講師として「応用行動分析」に関する講演を行った（旭川校:蔦森）。

・旭川市子ども総合相談センター第12回研修事業の講師として「発達性ディスレクシア～子どもの特徴と関わる上での留意点～」に関する講演を行った（旭川校:蔦森）。

・札幌市特別支援教育コーディネーター養成研修会，令和元年６月７日(金)，札幌市生涯学習センターちえりあ，150名(小野寺)

・富良野市特別支援教育連携協議会コーディネーター研修会，令和元年６月２６日(水)，富良野市立図書館，50名(小野寺)

・北海道言語障害児教育研究大会釧路大会臨床研修会，令和元年９月１３日(金)，釧路市生涯学習センター，80名(小野寺)
・北海道養護教員会上川支部研修会，令和２年２月１７日(月)，旭川市市民活動センター，50名(小野寺)

(3)附属との連携による人材育成・研修プログラム

1)附属特別支援学校

・北海道中標津高等養護学校とのテレビ会議

授業改善のための実態把握方法として、本校の研究成果をもとに中標津支援学校においても授業改善を行った。両校の授業を映像で見ることで、授業における実態把握や評価について話し合うことにつながった。

・附属函館小学校と共同した通常の学級の授業づくり

特別支援学校の職員が授業参観を行いながら、分かりやすい授業の在り方について意見交換を行った。その成果について、2月14日に行われた「授業力向上セミナー」で、セミナー参加者に報告を行った。

2)附属特別支援学校との共同による特別支援教員養成カリキュラムの検討

釧路校特別支援教育研究室２年生(16名)の特別支援教育臨床Ⅱ(実習科目)を附属特別支援学校にて実施した。本授業のねらいは次の３点であった。①児童生徒の実態把握をするために必要な観察方法・内容を考え，必要なデータを収集することができる。②授業を構成的に観察することで，児童生徒を教師，児童生徒間の関係性の視点からとらえ，理解することができる。③対象を理解するために必要な仮説生成とその検証のために必要なデータ収集について考えることができる。

２日間を通して，対象を設定して参与観察を行った。グループ(4人×4グループ)で同一対象を観察したことで，学生は自分とは異なる視点でとらえた観察結果を集団的に検討し，複眼的な視点で観察をする際の観点について学んだ。さらに，個に焦点を当てた観察から個をとりまく他の児童生徒・教師とのやりとり，環境の中にある関係をとらえて観察することを学ぶことができた。また，附属特別支援学校各学部の教諭にもカンファレンスに参加をいただき，学生の発表を深める意見をいただいた。附属特別支援学校の各学部の教諭の演習参加により，児童生徒の背景や問題意識をより深める議論が行

われた。

２年次に本実習に参加することで，特別支援教採用試験受験の動機づけにつながる可能性が示唆される。2年前に本実習に参加した学生12名のうち３人が，特別支援学校教員の採用予定である。今後，釧路校の特別支援学校教員養成カリキュラム開発に活用したい。

3）附属小中学校特別支援学級(ふじのめ学級)における研修プログラム

特別支援教育関係の教員向け研修プログラムとして令和元年7月5日(金)に北海道教育大学附属札幌小・中学校特別支援学級（ふじのめ学級）において、附属学級が主催して全道教育研究大会（特別支援教育）を実施した。研究主題「思いを実現しながら学ぶ子どもを目指して」の3年目として研究副主題「子どもたちの思いと行動で膨らむ授業づくり」を設定して授業公開・分科会の意見交流、ポスター発表、教育講演を実施した。参加者は札幌市内の教員を中心に全道から250名余あり、教育委員会・特別支援学級・特別支援学校・小学校・中学校等が校種や職種を超えた教育実践交流を行った。とりわけ中学校の公開授業の保健体育科「爆弾運びゲーム」では、体育館で活動する個々の生徒をタブレット端末で撮影し、直後にプロジェクターを使ってホワイトボードに動画を提示し、注目すべき個所を効果的に示すなど、生徒が視覚的に理解しやすいよう新たな試みを行った（研究紀要第49集p.52）。タグラグビーにもつながる授業実践への注目は高く、発達障害のある子どもの新しい体育実践として今後も継続して取り組んでいく。

(4) 心理アセスメントの実装プロジェクト

・WISC-IVおよびVineland-II，感覚プロファイル，読み書き検査など包括的アセスメントデータを実施し，保護者の他，医療，および学校へのフィードバック，コンサルテーションを行った。

・アセスメントデータは現時点で６7件（延べ数。うち本プロジェクト開始から現在まで12件）である。

・引き続き包括的アセスメントデータを継続して蓄積することで，適応行動の程度に及ぼす要因，学習到達度に及ぼす要因，対人関係に及ぼす要因などについても検討し，医療および学校との連携することにより，教育現場で利用可能な評価アセスメントを検討する。

(5)そのほか

1)学会等における報告

本プロジェクトの活動内容に関し、北海道特別支援教育学会第14回旭川大会にて報告を行った。

日時　2019年10月12日(土)－13日(日)

会場　北海道教育大学旭川校

報告テーマ：

効果的な個別の教育支援計画作成法の開発と支援力育成に向けて

～北海道教育大学特別支援教育プロジェクトの取り組み～

2)研究打ち合わせ

プロジェクトが広域にわたるため、北海道特別支援教育学会第14回旭川大会会場にて本プロジェクトに関わる打ち合わせを各取り組み担当者と行ない、進行について確認した。１．情報ネットワークを通した情報提供のためのコンテンツ開発

Ⅳ．実施成果の公表

【著書】

千賀愛「第1章　特別ニーズ教育への流れ　3.1　権利条約等」『シリーズやさしく学ぶ教育課程　特別支援教育』是永かな子・尾高進編、学文社、2020、pp.10-13（印刷中）.

Yongshun Wang, Xiaolei Kang, Anlu Yang, Tomoyasu Yasui and YoungHwan Koh(2019)Histry of inclusive physical education in Asia、Inclusive Physical Education around the World -Origins, Cultures, Practices-(Ed: Heck,S.& Block M.)、 Routledge、98-117

【学術論文】

片桐正敏 (2019). 適応機能としての自閉症スペクトラム障害の注意・感覚処理特性. 心理学評論, 62(1), 25-38.

片桐正敏, 伊藤大幸, 村山 恭朗他 (2019). 児童・思春期における発達障害特性と社会的スキルとの関係. LD研究, 28(3), 241-251.

木村牧生、安井友康(2019). スヌーズレン教育のためのICT機器の活用について、北海道教育大学紀要、教育科学編、70(1)、137-143

山下公司・小野寺基史(2019).知的障害が疑われた読み書き困難のある児童への読み書き指導ー通級指導教室での取組ー, K-ABCアセスメント研究21巻21号, 2019, pp43-51

村田敏彰・小野寺基史(2019).特別支援教育支援員の校内活用体制に関する考察ー支援員の困り感軽減・解消に向けた校内活用体制の再整備ー, LD研究28巻３号, 2019, pp349(35)-362(48)

【学会発表、シンポジウム等】

・安井友康･青山眞二･齊藤真善･三浦 哲・千賀 愛・池田千紗・萩原 拓･片桐正敏・蔦森英史･小渕隆司･木戸口正宏・二宮信一・戸田竜也・小野川文子・五十嵐靖夫･北村博幸･細谷一博･大山祐太(北海道教育大学)･小野寺基史(北海道教育大学教職大学院）・附属特別支援学校・附属札幌小中学校特別支援学級、(2019)：効果的な個別の教育支援計画作成法の開発と支援力育成に向けて～北海道教育大学特別支援教育プロジェクトの取り組み～、北海道特別支援教育学会第14回旭川大会、会場北海道教育大学旭川校

・長瀬桃果，片桐正敏（2019）．高い知能を有する児童の発達障害特性．第60回日本児童青年精神医学会総会，沖縄．
・逢坂一伸，片桐正敏（2019）．管理職が求める教員の資質とは何か．第14回北海道特別支援教育学会旭川大会，旭川．
・長瀬桃果，片桐正敏（2019）．知的ギフテッドの子をもつ親の養育行動．第１４回北海道特別支援教育学会旭川大会，旭川．
・長尾明佳，萩原拓（2019）．自閉スペクトラム症のある成人の社会的自立に向けた余暇支援．第14回北海道特別支援教育学会旭川大会，旭川．
・赤嶺大和，萩原拓（2019）．自閉スペクトラム症のある成人の社会的自立に向けた余暇支援．第14回北海道特別支援教育学会旭川大会，旭川．
・亀山麻子，蔦森英史(2019)．小学校1年生の音韻処理能力が音読流暢性に及ぼす効果の検討.第14回北海道特別支援教育学会旭川大会，旭川．
・蔦森英史(2019)．年長児の音韻処理能力が音読流暢性に及ぼす効果の検討．日本心理学会第83回大会，大阪．
・Eishi Tsutamori, Akira Uno, Taeko N. Wydell. (2019).Visual attention span deficit is the difficulty of filtering out adjacent characters from cued target. The 26th Annual Meeting of the Society for the Scientific Study of Reading Toronto, Canada.
・中門優里、安井友康(2019)ダウン症児のトランポリン跳躍姿勢の発達－事例を通した縦断的検討から－、日本アダプテッド体育・スポーツ学会第24回大会in Osaka 2019、大阪体育大学（ふじのめ学級との共同研究の成果発表）
・穴田千果、安井友康(2019) 道内知的障害高等支援学校の運動部活動に関する調査報告、第19回北海道アダプテッド・スポーツ研究会、北海道医療大学あいの里キャンパス　（北海道立内の特別支援学校との共同調査の成果報告）
・Tomoyasu.YASUI, Ai.SENGA, Chisa.IKEDA, Rihito.YAMAMOTO(2019) Introduction of inclusive physical activity "Kinder Platz" 2019 International Symposium of Adapted Physical Activity (ISAPA)、Charlottesville, VA, USA　（札幌校における臨床支援活動の取り組み報告）

【講習会等(主催分)】

・道南地域における現職教員研修プログラム(発達障害児への理解と支援、令和元年８月１８日（日），上ノ国町総合福祉センター(ジョイ･じょぐら)
https://www.hokkyodai.ac.jp/info_topics/hak/detail/8811.html
・札幌市特別支援教育コーディネーター養成研修会，令和元年６月７日(金)，札幌市生涯学習センターちえりあ，150名
・富良野市特別支援教育連携協議会コーディネーター研修会，令和元年６月２６日(水)，富良野市立図書館，50名
・北海道言語障害児教育研究大会釧路大会臨床研修会，令和元年９月１３日(金)，釧路市生涯学習センター，80名
・北海道養護教員会上川支部研修会，令和２年２月１７日(月)，旭川市市民活動センター，50名

(5)テキスト、報告書、研修資料等
・研究紀要＜第 49 集＞令和元度全道教育研究大会(特別支援教育)（ふじのめ学級)、2019

・ふじのめ学級の教育課程　「ふじのめの教育」、北海道教育大学附属札幌小中学校特別支援学級（ふじのめ学級)、2019

取り組み担当者

青山眞二（札幌校・教授）
三浦　哲（札幌校・教授）
安井友康（札幌校・教授）
齊藤真善（札幌校・准教授）
千賀　愛（札幌校・准教授）
池田千紗（札幌校・准教授）
萩原　拓(旭川校・教授)
片桐正敏(旭川校・准教授)
蔦森英史(旭川校・准教授)
五十嵐靖夫（函館校・教授）
北村博幸（函館校・教授）
細谷一博（函館校・教授）
二宮信一(釧路校・教授)
小野川文子(釧路校・准教授)
小渕隆司(釧路校・准教授)
戸田竜也(釧路校・准教授)
木戸口正宏(釧路校・講師)
大山祐太(岩見沢校・准教授)
小野寺基史（教職大学院・教授）
太田千佳子・附属特別支援学校・副校長
ほか附属特別支援学校教員
吉呑　正美・附属札幌小中学校特別支援学級・特命教頭
ほか附属札幌小・中学校　特別支援学級（ふじのめ学級）教員

令和元度学長戦略経費（重点分野研究プロジェクト）
効果的な個別の支援計画作成法の開発と支援力の育成
—実態把握方法の開発と情報支援—
事業成果報告書
北海道教育大学特別支援教育プロジェクト報告
北海道教育大学特別支援教育プロジェクト事務局
北海道教育大学札幌校特別支援教育（安井研究室）
〒002-8502 札幌市北区あいの里5条3丁目
電話/fax 011-778-0433
発行　令和2年 3月 31日